サムエル記第一（25）
「従うことは、いけにえにまさる」
1 サム 15：1〜23

1. 文脈の確認
   Ⅰ．王政に向けた準備（1〜9 章）
   Ⅱ．サウルの治世（10〜31 章）
      A. サウルの確立（10〜14 章）
      B. サウルの没落（15 章）
         1. 従うことは、いけにえにまさる（15：1〜23）
         2. サウルから王位が取り去られる（15：24〜35）

2. 注目すべき点
   （1）アマレクに対する聖絶は、神による裁きである。
      ①長い猶予期間の後に下された、神の主権的な裁きである。
   （2）サウルの問題は、部分的な従順を完全な従順だと誤解したことである。
      ①神のことばに自分の判断を加えることが、サウルの不従順の本質である。
   （3）神が求めるのは、宗教的行為よりもみことばへの従順である。
      ①「神のことばを退ける者は、神から与えられた使命を失う。

命題：聞き従うことはいけにえにまさる
この箇所を 4 区分して学ぶと、そのことが分かる。
Ⅰ．神の命令（1〜3 節）
   1. サウルを王に任命した【主】（1 節）
1Sa 15:1　サムエルはサウルに言った。「【主】は私を遣わして、あなたに油を注ぎ、主の民イスラエルの王とされた。今、【主】の言われることを聞きなさい。
      （1）サウルをイスラエルの王としたのは、【主】である。
         ①サウルは、【主】のしもべである。
         ②それゆえ、【主】の命令に聞き従う義務がある。

   2. アマレクの罪を覚えておられる【主】（2 節）
1Sa 15:2　万軍の【主】はこう言われる。『わたしは、イスラエルがエジプトから上って来る途中で、アマレクがイスラエルに対して行ったことを覚えている。
      （1）背景は出エジプト 17：8〜16 である。
         ①エジプトを脱出した直後、アマレク人がレフィディムでイスラエルを攻撃した。

（2）申 25：17～18 は、その攻撃の悪質さを説明している。

①アマレクは、イスラエルの後方にいた弱い者たちを襲った。

②神がエジプトから救い出した民に対する意図的な攻撃であった。

（3）申 25：19 の約束

Deu 25:19　あなたの神、【主】が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、あなたの神、【主】が周囲のすべての敵からあなたを守って、安息を与えられるようになったときには、あなたはアマレクの記憶を天の下から消し去らなければならない。このことを忘れてはならない。

3．アマレクを聖絶せよとの命令（3 節）

1Sa 15:3　今、行ってアマレクを討ち、そのすべてのものを聖絶しなさい。容赦してはならない。男も女も、幼子も乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺しなさい。』」

（1）神はアマレクの罪を忘れておられなかった。

①しかし、裁きの執行までには長い猶予期間があった。

②神の裁きが遅いことは、神が罪を見過ごしておられることを意味しない。

II．サウルの不従順（4～9 節）

1．軍隊の招集（4～5 節）

1Sa 15:4　サウルは兵を呼び集めた。テライムで彼らを数えると、歩兵が二十万、ユダの兵が一万であった。

1Sa 15:5　サウルはアマレクの町へ行って、谷で待ち伏せした。

（1）サウルは、【主】の命令に従った。

①歩兵が 20 万、ユダの兵が 1 万

②アマレクの町へ行って、谷で待ち伏せた。

③アマレク人は遊牧的な生活をしていたので、「町」は城壁都市を意味しない。

2．ケニ人への警告（6 節）

1Sa 15:6　サウルはケニ人たちに言った。「さあ、アマレク人のもとを離れて下って行きなさい。私があなたがたを彼らと一緒にするといけないから。あなたがたは、イスラエル人がみなエジプトから上って来たとき、親切にしてくれたのです。」ケニ人はアマレク人の中から離れた。

（1）ケニ人はアマレク人の中に住んでいた。

①アマレク人とは対照的に、ケニ人はイスラエルに好意を示した。

②民 10：29～32、士 1：16

③神の裁きは、無差別ではない。

3. アマレク人への勝利（7〜8 節）

1Sa 15:7　サウルは、ハビラからエジプトの国境にあるシュルに至るまで、アマレク人を討ち、

1Sa 15:8　アマレク人の王アガグを生け捕りにし、その民のすべてを剣の刃で聖絶した。

（1）ハビラからエジプトの国境にあるシュルに至るまでアマレク人を討った。

①「アマレク人の王アガグを生け捕りにし」というのが問題の始まりであった。

②3 節では、例外を設けずに聖絶するように命じられていた。

4. アガグと最良の家畜を残すサウル（9 節）

1Sa 15:9　サウルとその兵たちは、アガグと、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しんで、これらを聖絶しようとしなかった。ただ、つまらない値打ちのないものだけを聖絶したのである。

（1）不従順の罪が明らかになる。

①主語は、「サウルとその兵たち」である。

②良いもの→残した

③価値のないもの→聖絶した

（2）これは「部分的従順」というより「選択的従順」である。

①自分が納得できるところまでは従い、それ以上は自分の判断を優先した。

Ⅲ. サウルの自己正当化（10〜21 節）

1. サウルを王としたことを悔やむ【主】（10〜11 節）

1Sa 15:10　【主】のことばがサムエルに臨んだ。

1Sa 15:11　「わたしはサウルを王に任じたことを悔やむ。彼はわたしに背を向け、わたしのことばを守らなかったからだ。」それでサムエルは怒り、夜通し【主】に向かって叫んだ。

（1）「悔やむ」という言葉の意味

①人間のように「判断を間違えたので後悔した」という意味ではない。

②人間の行動が変化したため、神の人間に対する扱いが変化した。

（2）サムエルはこれを聞いて「怒り」、一晩中【主】に叫んだ。

①サムエルにとってサウルの失敗は、他人事ではなかった。

2. 自分のために記念碑を建てるサウル（12 節）

1Sa 15:12　翌朝、サムエルはサウルに会いに行こうとして早く起きた。すると、サムエルに、

「サウルはカルメルに来て、もう自分のために記念碑を立てました。そして向きを変えて進んで行き、ギルガルに下りました」という知らせがあった。

（1）サウルの問題は、単なる不従順から、霊的盲目へと進んでいる。

①神の評価――「彼はわたしに背を向けた」

②サウルの自己評価――「私は勝利した」

3.「私は【主】のことばを守りました」と主張するサウル（13 節）

1Sa 15:13　サムエルはサウルのところに来た。サウルは彼に言った。「あなたが【主】に祝福されますように。私は【主】のことばを守りました。」

（1）サウルの自己評価

①「私は【主】のことばを守りました。」

②しかし、サムエルの質問がサウルの不従順を暴いた。

4. 羊と牛の声によって明らかになる不従順（14～15 節）

1Sa 15:14　サムエルは言った。「では、私の耳に入るこの羊の声、私に聞こえる牛の声は、いったい何ですか。」

1Sa 15:15　サウルは答えた。「アマレク人のところから連れて来ました。兵たちは、あなたの神、【主】に、いけにえを献げるために、羊と牛の最も良いものを惜しんだのです。しかし、残りの物は聖絶しました。」

（1）羊と牛の声が不従順を証言した。

①聖絶しなかったものが残っていた。

（2）サウルの二つの弁明

①「兵たちは、……惜しんだのです。」（責任転嫁）

②「あなたの神、【主】に、いけにえを献げるために、」（宗教的正当化）

5. サムエルによる罪の指摘（16～19 節）

1Sa 15:16　サムエルはサウルに言った。「やめなさい。昨夜、【主】が私に言われたことをあなたに知らせます。」サウルは彼に言った。「お話しください。」

1Sa 15:17　サムエルは言った。「あなたは、自分の目には小さい者であっても、イスラエルの諸部族のかしらではありませんか。【主】があなたに油を注ぎ、イスラエルの王とされたのです。

1Sa 15:18　【主】はあなたに使命を与えて言われました。『行って、罪人アマレク人を聖絶せよ。彼らを絶滅させるまで戦え。』

1Sa 15:19　なぜ、あなたは【主】の御声に聞き従わず、分捕り物に飛びかかり、【主】の目に悪

であることを行ったのですか。」

（1）サウルの変化

①小さい者だと思っていたサウル

②王として立てられたサウル

③自分の判断を神の命令より優先するサウル

④自分のために記念碑を建てるサウル

（2）問題は、戦争に勝ったかどうかではなく、【主】の御声に聞き従ったかどうか。

6. なおも自分を正当化するサウル（20～21 節）

1Sa 15:20　サウルはサムエルに答えた。「私は、【主】の御声に聞き従い、【主】が私に授けられた使命の道を進みました。私はアマレク人の王アガグを連れて来て、アマレク人たちは聖絶しました。

1Sa 15:21　兵たちは、ギルガルであなたの神、【主】にいけにえを献げるために、聖絶の物の中の最上のものとして、分捕り物の中から羊と牛を取ったのです。」

（1）「私は従いました」

①ただし、アガグは残しました。

②家畜も残しました。

③それをしたのは民です。

④しかも神のためでした。

IV. 神が求める従順（22～23 節）

1.【主】が喜ばれるものは何か（22 節）

1Sa 15:22　サムエルは言った。／「【主】は、全焼のささげ物やいけにえを、／【主】の御声に聞き従うことほどに／喜ばれるだろうか。／見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、／耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。

（1）「聞き従う」と訳されている中心語は、「シャーマー」である。

①聞く→受け入れる→従う

②何かを献げることより、神のことばを聞いて、そのとおりに行うことのほうが重要である。

2. 不従順の霊的本質（23 節 a）

1Sa 15:23a　従わないことは占いの罪、／高慢は偶像礼拝の悪。

（1）不従順＝「占いの罪」

①占いの本質は、神以外のところから導きを得ようとすること。

②サウルは、自分の判断を最終的な権威とした。

(2) 高慢＝「偶像礼拝の悪」

①神ではなく、自分が決定者になる。

3.【主】のことばを退けたサウルへの宣告（23 節 b）

1Sa 15:23b　あなたが【主】のことばを退けたので、／主もあなたを王位から退けた。」

(1) 明確な対応関係がある。

①サウルが【主】のことばを退けた。

②【主】がサウルを王位から退けた。

＊救いを失ったのではなく、王としての資格を失ったという宣告である。

今日の信者への適用

1. 部分的な従順で満足してはならない。

(1) サウルは神の命令を全面的に拒否したわけではない。

(2) 問題は、神のことばの中から、自分が従いたい部分だけを選んだことである。

(3) 私たちにも同じ危険がある。

2. 奉仕を従順の代用品にしてはならない。

(1) サウルは、「あなたの神、主にいけにえを献げるためです」と言った。

(2) サムエルは、「聞き従うことはいけにえにまさる」と言った。

(3) 今日の信者にも、これは重要である。

(4) 神のために何かをすることと、神に従うことは、必ずしも同じではない。

3. 自己正当化ではなく、神のことばによって自分を見る。

(1) サウルには、自分の姿が見えていなかった。

(2)「私は自分をどう評価しているか」ではなく、「神のことばは私をどう評価しているか」が大切である。